

アジア地域研究科 アジア地域研究専攻 博士課程前期課程

教育研究上の目的

アジア地域研究科博士課程前期課程は、アジア諸地域の問題に関する理解と洞察力を深め、アジア地域研究に関する深い学識を修めた、国際的な広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を有する人材の育成を目的とする。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

アジア地域研究科アジア地域研究博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（アジア地域研究）の学位を授与する。

1. アジア地域の政治・経済・社会・歴史・文化・芸術に関する広範な知識を修得するとともに、特定の専門分野に関する高い理解力、国際的な広い視野に立脚した研究能力と職業能力を身につけている。
2. アジア地域に生起する諸事象を多角的かつ批判的に考察し、修士論文等において国際的かつ広い視野に立脚した独自性のある意見を論理的に表現することができる。
3. アジア地域について強い関心を持ち、特定の専門分野に高い問題意識を有し、多文化共生社会の実現に向けて積極的に行動し、グローバル社会の一員としての倫理感と責任感をもって問題の解決に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

アジア地域研究科博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) アジア地域の政治や社会、歴史や文化など多様な分野にかんする専門的な講義科目と実習的な演習科目を中心にアジア地域研究に関する深い学識を身につける。
- (2) 関連科目では地域調査方法論、地域研究実習、地域研究特殊講義といった科目の履修を通じて、アジア諸地域に共通する問題に関する理解と洞察力を深めると共に、実践的な研究方法を身につける。
- (3) 各学生が希望するテーマに基づいた専門的研究が行えるよう教育課程を整備し、学生による選択の枠組みを設定する。

2. 教育方法

- (1) 演習科目、研究指導等の少人数科目を利用し、インタラクティブな教育を実施する。
- (2) 専門とする地域でのフィールドワークを推奨する。
- (3) 主となる指導教員に加えて副となる指導教員2名による集団指導を行い、国際的かつ広い視野に立脚した修士論文の作成能力を育成する。
- (4) 年2回の研究報告会を実施、その際の各学生の研究報告を活用し、自己評価と他者評価を踏まえた、研究状況の振り返りを促していく。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、アジア地域研究科における単位取得状況、研究指導受講状況、修士論文等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、1年次の詳細な修士論文計画書、年2回の研究報告会での報告を活用し、教員による面談を実施する。
- (3) 2年間の総括的な学修成果として、複数教員による論文の評価を行う。アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針） アジア地域研究科アジア地域研究博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. アジア地域研究に取り組むのに十分な基礎学力と必要な言語運用能力を有している。
2. アジア地域の諸事象について多角的かつ批判的に分析し、自らの考えを的確に論じることができる。
3. アジア地域の諸事象について高い問題意識を持ち、国際的な広い視野に立脚した研究能力と職業能力の獲得を目指し、国際協力や国際交流に貢献する意欲を有している。

アジア地域研究専攻博士課程前期課程 アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
一般方式	書類審査	●		
	筆記試験	●	●	
	面接試験	●	●	●
留学生方式	書類審査	●		
	筆記試験	●	●	
	面接試験	●	●	●
社会人方式	書類審査	●		
	小論文試験	●	●	
	面接試験	●	●	●
推薦方式	書類審査	●		
	面接試験	●	●	●